

小田川 多自然川づくり検討の概要

1. 小田川付替え事業の概要	1
2. 概略事業内容	2
3. 検討対象範囲	3
4. 検討フローと役割分担	4
5. 川づくりの目標及び検討項目の抽出	5
6. 検討のポイント	6

岡山河川事務所

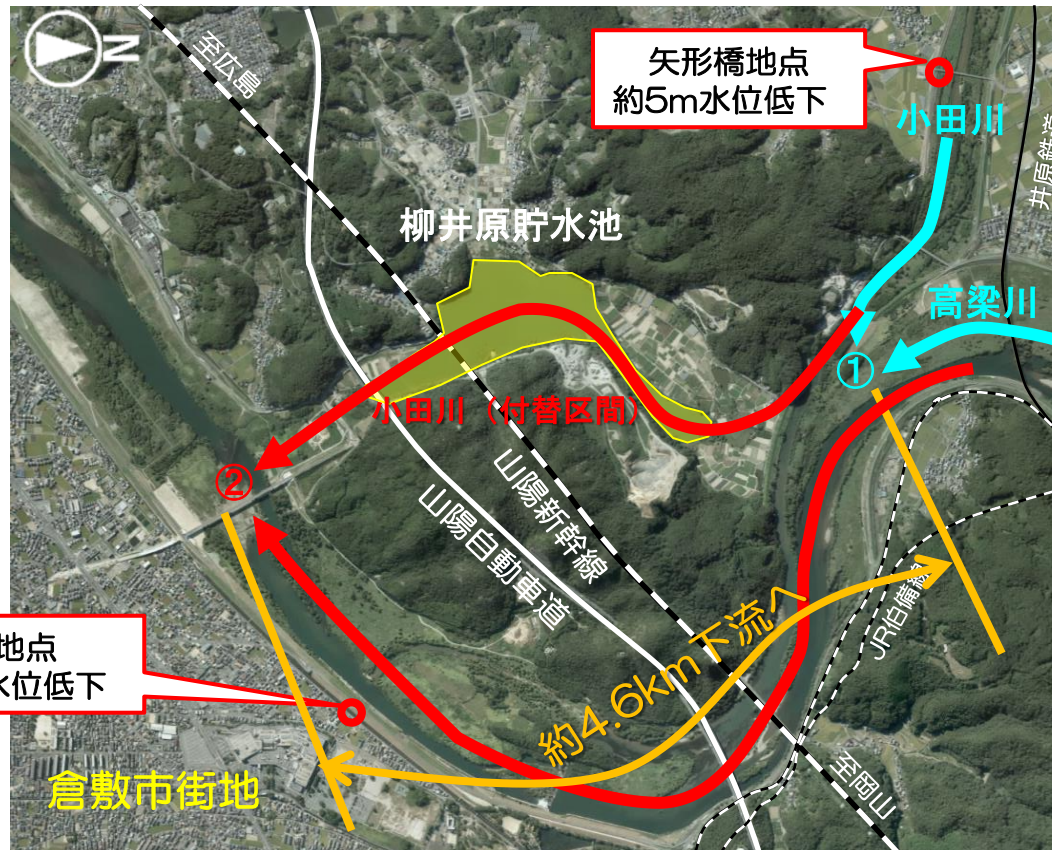
1. 小田川付替え事業の概要

事業概要

●現在①の箇所で合流している小田川と高梁川を②の箇所(4.6km下流)で合流させる。

→効果

- 高梁川の背水影響が軽減され、小田川水位が低下。小田川矢形橋地点で約5m水位低下。小田川沿川の**内水被害リスクが大幅減**。
- 現合流点と新合流点の間で流量が減少することにより、酒津地点の水位が約0.4m低下。**倉敷市街地の水害リスクを低減**。

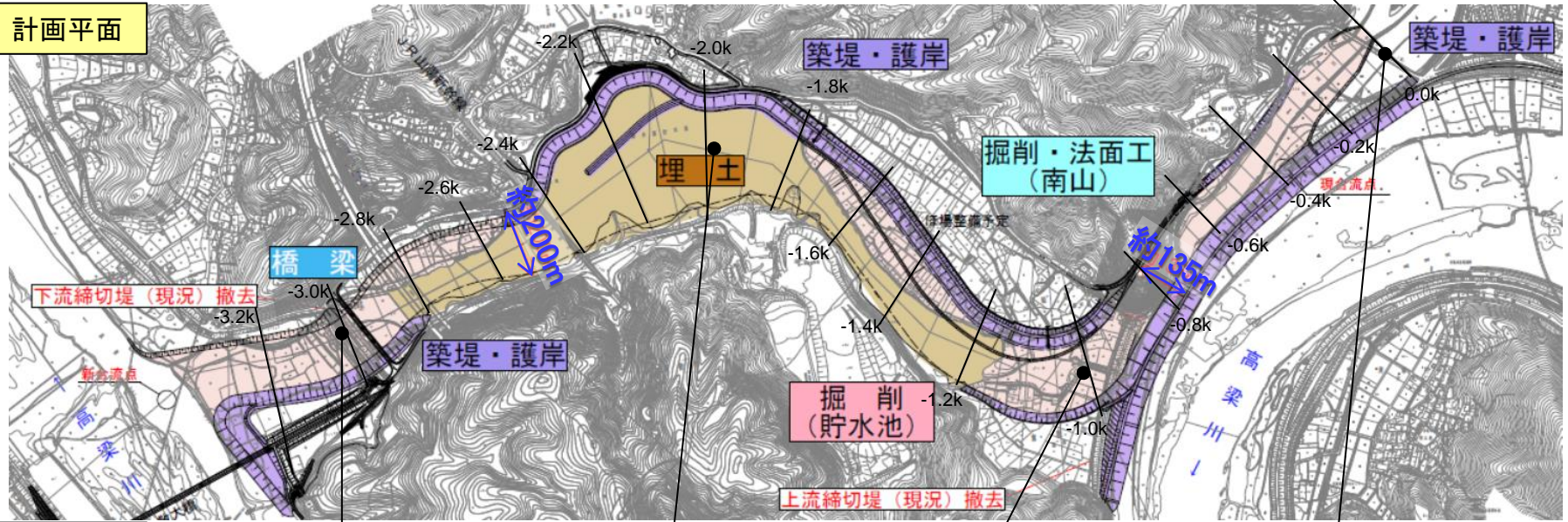


2. 概略事業内容

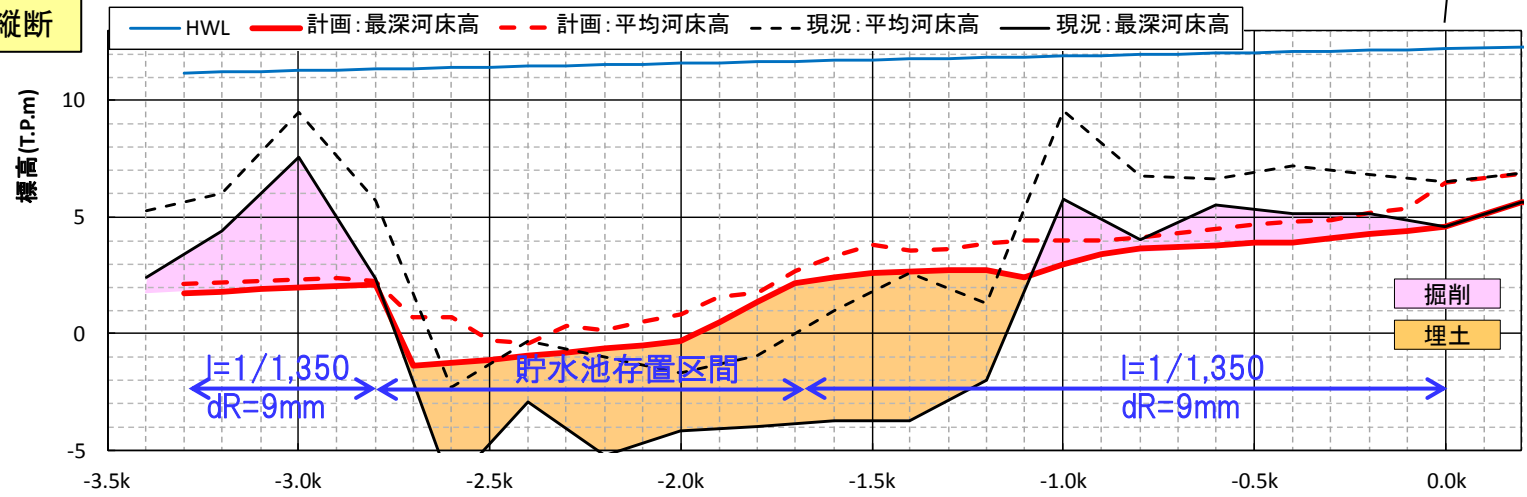
事業内容

- 新河道部分となる南山や現耕作地を掘削し、堤防の盛土や貯水池内を一部埋土する。
- 標準的な区間の川幅は約200m、南山を掘削する部分の川幅は約135mとなる。

計画平面



計画縦断



3. 検討対象範囲

検討対象範囲

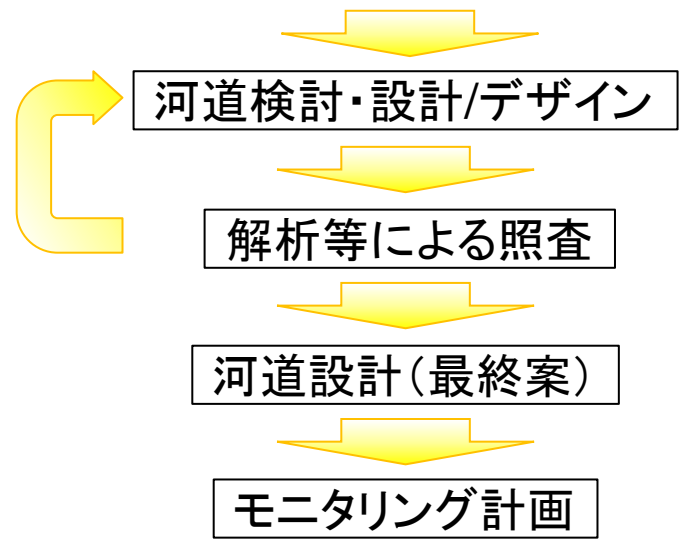
- 本検討協議会にて助言を頂く範囲は、新たに創出する付替区間の多自然川づくりに関する検討とする。



4. 検討フローと役割分担

検討フロー

検討項目の抽出・目標設定・境界条件設定



第1回協議会

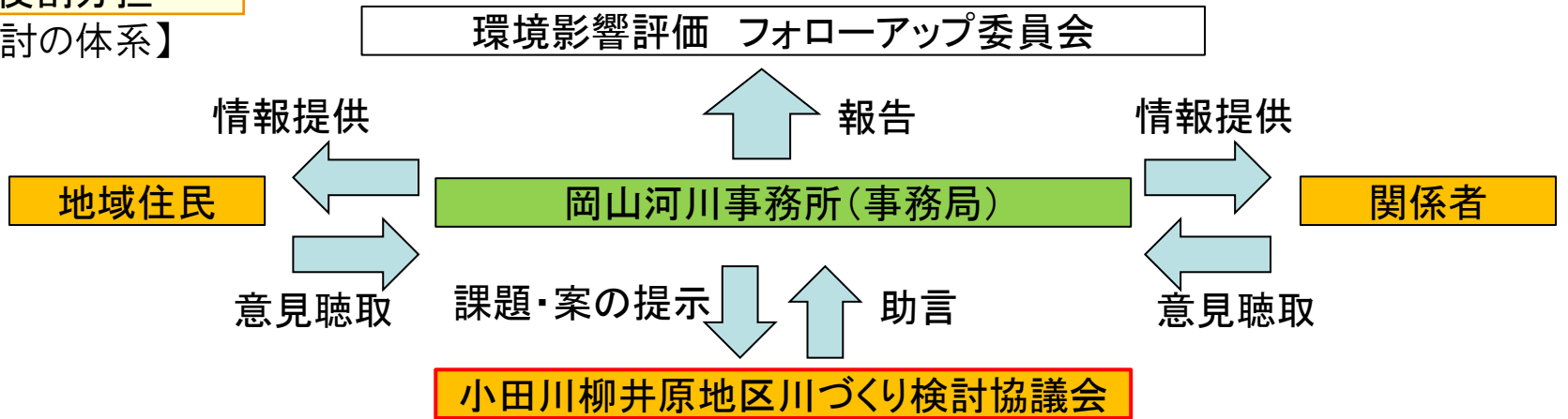
- 具体的な検討方針・条件等の提示
 - ・検討項目抽出の妥当性
 - ・対象種の生息、生育等の環境条件
 - ・検討実施方針の妥当性
- 具体的な対応策(案)の提示
 - ・概略検討結果の妥当性

次回以降 協議会

- 最適対応策の提示
 - 例)・検討結果の確認と妥当性
- モニタリング計画の提示
 - 例)・評価項目・方法の確認と妥当性
 - ・調査頻度の妥当性

役割分担

【検討の体系】



5. 川づくりの目標及び検討項目の抽出

目標

- 新たに創出する付替河道において、現小田川の環境を延伸し、多様な動植物の生息・生育、繁殖環境、また河川利用を考慮した空間を創出する。

検討項目の抽出

- 検討項目は、多自然川づくりとして取り組む内容の他、環境影響評価結果や地域からの要望を踏まえて抽出する。

分類	検討項目
多自然川づくりとして取り組む項目	1. 平水時の流水環境整備(瀬淵、みお筋、ワンドの創出)
	2. 高梁川と小田川の環境バランス、連続性の確保
環境影響評価結果を踏まえて取り組む項目	3. アサザの生育環境の保全
	4. ホソバイヌタデ等の一年生草本の生育適地の整備
	5. 在来タナゴ類の生息、繁殖環境の創出
地域からの要望により取り組む項目	6. 河川利用等の観点から親水性への配慮

6. 検討のポイント

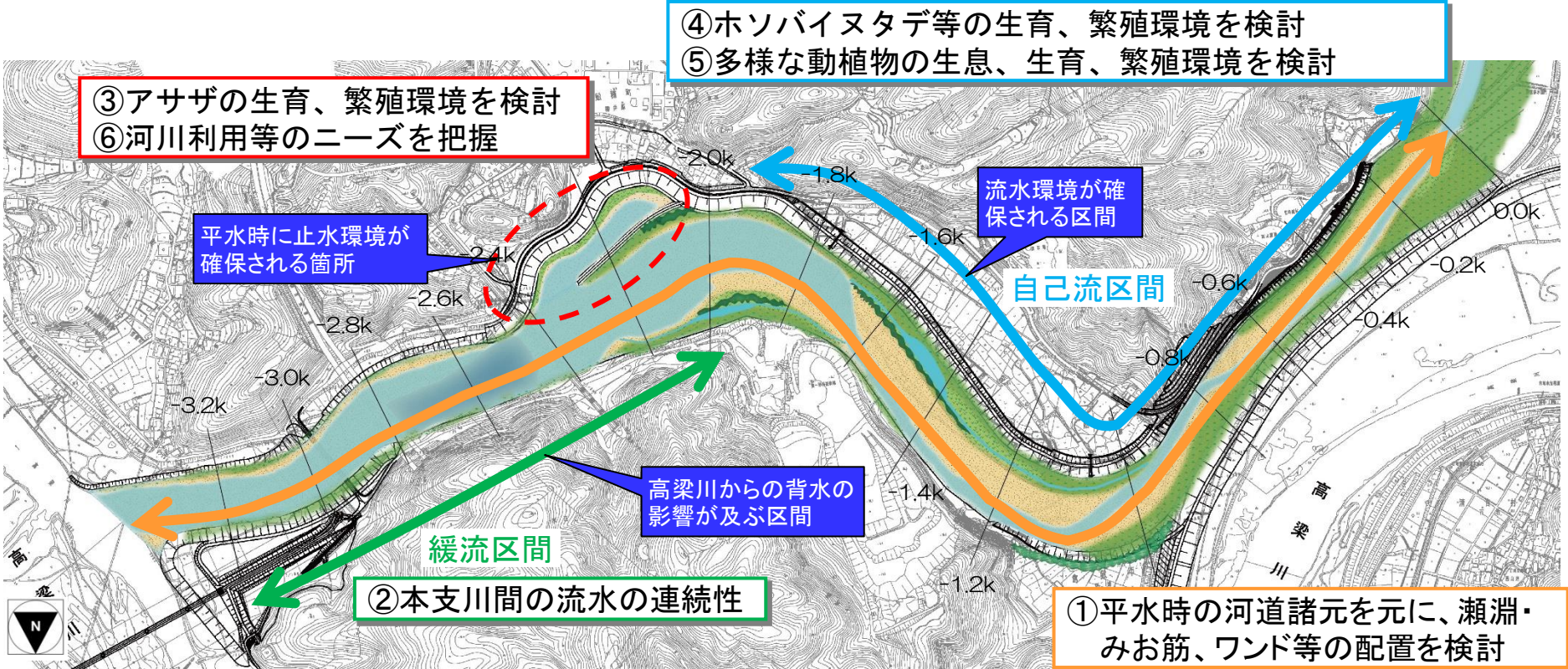
ポイント

- ① 平水時の物理環境等を分析し、瀬淵、みお筋、ワンド等の配置を検討する。
- ② 検討された河道をもとに、本支川間の流水の連続性を確認する。
- ③ アサザの生育、繁殖適地の環境条件を検討する。
- ④ ホソバイヌタデ等の生育、繁殖適地の環境条件を検討する。
- ⑤ 在来タナゴ類等多様な動植物の生息、繁殖適地の環境条件を検討する。
- ⑥ 河川利用等のニーズを把握する。

検討の流れ
新たな物理環境の整理



ディテールの検討



小田川の川づくりイメージ図

6. 検討のポイント

(関連する周辺施設)

現在計画中の周辺施設の概要

- 総合グラウンド(平常時利用)の整備
- ・桜並木
 - ・コミュニティハウス
 - ・駐車場

